

アロンに優る御子・第三の警告（4：14～6：20）

■ヘブル人への手紙の構成

二つの主要な区分	内容	箇所	警告
第一区分： 神学的理論を中心に （適用としての警告 も含む） ユダヤ教の三本柱と 御子との比較	テーマ	1：1～3	
	天使たちに優る御子	1：4～2：18	警告① 2：1～4
	モーセに優る御子	3：1～6	
	第二の警告	3：7～4：13	警告②
	アロンに優る御子 （レビ族アロンの家系の祭司 職に優る御子）注①	4：14～10：18	警告③ 5：11～6：20
第二区分： 適用（御子の優位性を 理解した上での、信者 の歩み）	勧めのための2つの基盤と4 つの勧め、警告、励まし	10：19～39	警告④ 10：26～31
	生きた信仰の証明	11：1～40	
	信仰を持ち続けることの勧め	12：1～29	警告⑤ 12：25～29
	まとめとしての勧め	13：1～25	

注① レビ族アロンの家系の祭司職 ⇒ 以下、「レビ系祭司職」

■アロンに優る御子（4：14～10：18）の展開（清水私見）

結論と中心的適用	4：14～16
----------	---------



	想定される質問	答え
1	イエスは、大祭司になることができますか？	5：1～10
	第2問に進む前に読者の霊的受容力を整える。第三の警告と勧め	5：11～6：20
2	メルキゼデクの位に等しい大祭司とは何ですか？	7：1～10
3	なぜ、レビ系とは別の大祭司が立てられるのですか？	7：11～25
4	では、キリストは天で犠牲を捧げているのですか？	7：26～28
	（中間的なまとめ）	8：1～6
5	「さらにすぐれた契約」とは何ですか。初めの契約（モーセの律法）には欠けがあったのですか？	8：7～13
6	初めの契約には、どのような欠けがあったのですか？	9：1～14
7	それでは、旧約の聖徒たちはどうなるのですか？	9：15～22
8	初めの契約において幕屋とその器具に犠牲の血が注がれました。同様にキリストは天の聖所にご自身の血を注いだのですか？（参照、レビ16：16）	9：23～28
9	モーセの律法は、まだ有効か、それとも無効なのですか？	10：1～9
10	罪のためのささげ物は、必要ですか。それとも不必要ですか？	10：10～18

イエスの祭司職

モーセの律法との関係

□前回の復習と今回の内容

1. 「アロンに優る御子」の冒頭で述べられるのは、結論と中心的な適用 (4:14~16)
 - (1) 結論・・・「私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられる」(4:14)
 - ① もろもろの天を通った=第一の天、第二の天を通り、第三の天に入って、天の聖所に入られた
 - ② 神の子イエス・・・神の子:神性、イエス:人性 ⇒ メシアは神-人である
 - ③ 御子は人となって、私たちと同じように試みに会われた。だから、私たちの弱さに同情できるお方である (4:15)
 - (2) 中心的な適用・・・「私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこう」(4:16)

⇒ 第二区分「適用」の書き出し 10:19「こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができます。」
2. 読者が4:14~16を読んで思い浮かべるのは、「ダビデの子孫、すなわちユダ族から出るメシアであるイエスが、大祭司になることができるのでしょうか？」
3. 著者は読者のこの想定質問に対して、5:1~10において「イエスは神によってメルキゼデクの位に等しい大祭司になられた」と説明します。その次には「メルキゼデクの位に等しい大祭司とはどういうものか」という説明に進むのですが、その前に読者の霊的受容力を整えるために、5:11~6:20において「第三の警告と勧め」が語られます。
4. 本日の内容は、5:1~6:20です。

■メルキゼデクの位に等しい大祭司 (5:1~10)

1. 大祭司の資格 (5:1~4)
 - (1) 資格Ⅰ=人であること
 - ① 人々の中から選ばれる=大祭司は、人でなければならない。
 - ② 大祭司は、人々を代表して神の前に立つ。
 - ③ メシアもまた、人となられた。
 - (2) 資格Ⅱ=罪のために、ささげ物といけにえとをささげること
 - ① ささげ物=血のささげ物と穀物のささげ物との両方に使われるが、「いけにえ」と共に使うときは、穀物のささげ物を指す。
 - ② いけにえ=血のささげ物
 - (3) 資格Ⅲ=自分自身も弱さを身にまとい、無知な、迷っている人々を思いやること
 - ① 無知:真理(真実、事実)を知らない、真理を無視する
 - ② 迷い:真理から逸脱する、罪を犯す
 - ③ レビ系祭司の場合は、自分自身の弱さゆえに罪を犯す。よって、人々の代表として神の前に立つ前に、毎回、自分のためにも「ささげ物」をしなければならない。
 - (4) 資格Ⅳ=神からの任命を受けること
 - ① アロンの場合・・・出28:1、コラの反乱(民16:1~15)とアロンの杖(民17:8)

- ② 王による越権行為 (サウル=Ⅰサム 13:5~14、ウジヤ=Ⅱ歴 26:16~23)
2. 御子の資格 (5:5~10)
- (1) 5~6節 資格Ⅳ=神からの任命
- ① 詩 2:7
- a. このメシア預言は、イエスの公生涯で2回、神の声によって引用された。洗礼 (マタ 3:17、マコ 1:11、ルカ 3:22)、変貌 (マタ 17:5、マコ 9:7、ルカ 9:35) のときの2回である。ただし、その引用は、前半の「あなたは、わたしの子」という部分でとまる。
- b. 後半の「きょう、わたしがあなたを生んだ」という部分の、「きょう」とは、イエスの復活の日である (ロマ 1:4)。
- c. イエスの大祭司としての資格は、復活と関連している。
- ② 詩 110:4
- a. イエスは神から大祭司として任命された。
- b. レビ系祭司職ではなく、メルキゼデクの位に等しい祭司職である。
- (2) 7節「人としてこの世におられた」 資格Ⅰ=人であること
- ① 「世におられたとき」=降誕 (受肉) から復活まで
- (3) 7節「自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげた」 資格Ⅱ=ささげ物をささげること
- ① メシアは、祈りと願いを捧げた。
- a. 「祈り」**ギ**デエーシス=具体的な要求、請願
- b. 「願い」**ギ**ヒケテリア=保護を必要とする人からの叫び、緊急性をもつ
- ② メシアは、大きな叫び声と涙をもってそれをされた。→ ゲッセマネの祈り
- ③ ゲッセマネの祈りでの「杯」とは、メシアが十字架上で経験することになる霊的な死を指す。メシアは、霊的な復活を祈り求めた。
- ④ 「その敬虔のゆえに」**ギ**ユーラベリア=神への畏怖、神を恐れる心。霊的な死とは父なる神から切り離されること、このことを心底恐れる心
- (4) 8節「お受けになった多くの苦しみによって従順を学び」 資格Ⅲ=自分自身も弱さを身にまとい、人々を思いやることができること
- ① 「従順を学び」: 人々が神に従うときに払う犠牲を体験的に知った
- (5) 9節「完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となり」
- ① 「完全な者とされ」**ギ**テレイオー=完了する。欠点がなくなったという意味ではなく、目標を達成する、ゴールに到達するという意味。
- ② メシアは、公生涯の目標である十字架の死を達成した。それにより、メシアを信じる者を救うことができる救い主とされた
- (6) 10節 その結果、父なる神は、御子を「メルキゼデクの位に等しい大祭司」と呼ばれた。
- (7) 読者がここで思い浮かべるのは、「メルキゼデクの位に等しい大祭司とは何ですか?」しかし、その説明にすぐ進むのは読者には難しいと著者は判断し、読者の霊的受容力を整えるために、第三の警告を語る。

■第三の警告 (5:11~6:20)

1. 信仰の停滞 (5:11~14)

(1) 11節 耳が鈍くなっている＝学ぶ意欲、前に進もうという意欲がなくなっている

(2) 霊的な幼子 (5:12~13)

- ① 神のことばの初歩：信仰の初歩、基礎的なこと
- ② 乳を必要としている：初歩的な教えをもう一度教えてもらう必要がある
- ③ 堅い食物：初歩的な教えよりも高度な霊的真理。「メルキゼデクの位に等しい大祭司」というテーマも「堅い食物」である
- ④ 義の教えに「通じていない」：ギアペイロス「経験していない」聞いた教えを行動に結びつけていない状態

(3) 霊的な大人 (5:14)

- ① 堅い食物は、経験を経た人たちの物である。学んだ真理を実生活に適用すると、善悪を見分ける感覚が経験的に身につく。
- ② ここでの文脈では、善は正しい教理、悪は誤った教理である

2. 信仰の停滞への処方箋 (6:1~3)

(1) 1節 a 信仰の停滞を打破するためには、「成熟を目指して進む」。「キリストについての初歩の教えをあとにして」、いつまでも初歩の教えを知っているというところにとどまらずに、知っていることを実行に移して霊的成長をすること。

(2) 1節 b~2節 「初歩の教え」とは、6つ。2つ1組が、3組ある。

- ① 死んだ行いからの回心、神に対する信仰・・・回心
 - a. メシアの死以降、モーセの律法に基づく祭儀は無意味なものとなった。それを実行することは、「死んだ行い」である。よって、「死んだ行いからの回心」とは、イエスをメシアと認めてその祭儀から離れること。
 - b. 「神に対する信仰」＝回心のときに、信者はメシアに信頼を置いた。それは、そのときの1回限りの決断であり、その瞬間に完全に決定的な救いが与えられる。信じ続けないと救いが失われる、というようなものではない。
- ② きよめの洗いに関する教え、手を置く儀式・・・儀式
 - a. 「きよめの洗い（複数形）に関する教え」：ユダヤ教の「種々の洗い（9:10）」＝水による洗いきよめの儀式に関する教え。教会における水の洗礼も含む可能性がある。ユダヤ人信者にとって、イエス・キリストの名によるバプテスマを受けるかどうかは、ユダヤ教から離れる決定的な分岐点。
 - b. 「手を置く儀式」：旧約聖書では、3つの意味を持つ儀式。新約時代にも継承されている。
 - 祝福を与える方法（マタ 19:3、使 8:17）
 - ある職責や任務に就かせるための方法（使 6:6、Iテモ 4:14）
 - 同一化の方法（レビ 1:4、16:21 → Iテモ 5:22²²）
- ③ 死者の復活、とこしえのさばき・・・終末論
 - a. 「死者の復活」：旧約聖書でも教えられていた（ヨブ 19:25、イザ 26:19、ダニ 12:2）。メシアの復活により、死者の復活が保証された。
 - b. 「とこしえのさばき」：大きな白い御座の裁きと火の池（黙 20:11~15）

- (3) 3節 「神がお許しになるならば」：ギリシヤ語の文法上、「神は当然それをお許しになる」という意味を含む条件節が使われている。成熟を目指して進むことは、神のみこころである。
3. 前進しないことの危険性（6：4～8）
- (1) 4節 「一度」**ギ**ハパックス「1回で完全に、1回で決定的に」の意味
- (2) 4～6節 原語の語順は、「不可能である、なぜなら、信者は、一回で完全に」と始まり、何が1回で完全に起きたかを5つ示し、その次に、何が不可能かを6節で示す。
- ① 信者に1回で完全に起きたこと
- 光を受けた（神の真理のことばを理解し、信じた。再生の瞬間）
 - 天からの賜物の味を知った（味見程度ではなく、しっかりと体験した）
 - 聖霊にあずかる者となった
 - 神のすばらしいみことばを味わった：**ギ**レーマ「語られたことば」 I ペテ 1：23 「神の生けることば**ギ**ロゴス」⇒2：3 神の恵みを味わった
 - 後にやがて来る世の力を味わった：（メシアの王国の力、2：4「しるし、・・・力あるわざにより」）
- ② 不可能なこと＝いったん墮落して再び悔い改めのやり直しをする＝ユダヤ教にいったん戻り、迫害が沈静化したら、再びイエスをメシアであると告白して、改めて救いを受けようとする。不可能な理由は次の2つ。
- 神の子を再び自分たちのために十字架にかける→メシアが地上に戻ってきて再び十字架にかかることはあり得ないから、不可能である。
 - 恥辱を与える：原語は「公衆の前で恥を与える」、神の子を再び十字架にかけることを前提にした表現である。再び十字架の贖いを要求するということは、1回目の十字架では救いは完全ではなかったということであり、それはあり得ないから、不可能である。
- (3) 7～8節 霊的幼子のままでいると、神の裁きを受けるという警告
- 土地＝信者、雨＝神の恵み
 - 雨はすべての土地に降るが、結果は異なる。
 - 耕す人がいると土地は作物を生じる = 成熟を目指して進む信者
 - そうでない土地はいばらやあざみを生じる＝霊的な幼子に留まる信者
 - 7節 神の祝福＝メシアの王国における祝福
 - 8節 のろい、焼かれる＝神の裁き
 - 地上での裁き（肉体的死も含む）
 - キリストの裁きの座での焼却（I コリ 3：10～15）
4. 励ましの言葉
- (1) 信者の救いに関する確信（6：9～12）
- 9節 「救いにつながること」：救いに付いてくること。信者は救いをすでに受け取っていて、それを失うことできない。救いには神の祝福が伴う。その祝福にあずかるには、霊的成熟を目指して前進する必要がある。
 - 12節 「なまけずに」**ギ**ノスロイ 5：11 では「耳が鈍い」

- ③ 11~12節で著者の3つの願いが語られる
 - a. 信者に与えられている希望について、確信を持ち続けること。忍耐は希望を生み出す。
 - b. 耳を鈍くせず、神のことばに聞いて行動につなげること
 - c. 信仰の先輩を見習うこと。信仰の先輩とは、信仰と忍耐によって約束のものを相続する人たちである（その実例の説明は、11章でさらに詳しく）
- (2) 神の約束に関する確信 (6:13~20)
 - ① アブラハムが得たもの
 - a. イサクの誕生
 - b. イスラエル民族の誕生
 - c. メシアの誕生
 - d. メシアを信じる異邦人信者の誕生
 - ② 18節 変えることのできない二つの事から
 - a. 神のことば: 神は偽りを言うことができない。神の約束は必ず成就する。
 - b. 神の誓い : ご自身を指して、約束の成就を誓われた。
 - ③ 20節 イエスは私たちの先駆者として、天の至聖所（神の臨在の場）に入られた。私たちもそこに入るのである。そこには私たちの大祭司であるイエスがおられる。
 - ④ 20節 イエスは、永遠に「メルキゼデクの位に等しい大祭司」となられた。
- (3) 著者は、次に「メルキゼデクの位に等しい大祭司」に関する説明に進みます。